

農村女性たちの思いを子どもたちに

「ザワザワしていた子どもたちが目を輝かせて聞いてくれるんです」

農業の大切さや大変さだけでなく、“農”が持っている優しさや充実感や安らぎを、子どもたちに五感で感じてほしいと願う徳島女性農業経営者ネットワーク(You・Meネット)。これまでの活動の成果物『とくしま農と食かるた』や『とくしま農と食クイズ』も、ずっと農業に携わってきた女性たちが五感で培ってきた、たくましさや優しさの集大成。体験ほ場に集まった子どもたちの目も釘づけた。

徳島女性農業経営者ネットワーク(You・Meネット)

取組主体

●名称：徳島女性農業経営者ネットワーク(You・Meネット)

●担当窓口

担当課(者)：佐々木 いつ子(代表) (米)

住所：徳島県鳴門市大麻町牛屋島字中北16-2

電話：090-5270-9731 FAX：088-689-2018

E-mail：sasaki2001@mtj.biglobe.ne.jp

担当課(者)：植田 美恵子(サツマイモ)

住所：徳島県徳島市川内町加賀須野358-3

電話・FAX：088-665-1234

E-mail：PoKuPoKu@md.pikara.ne.jp

●団体等の属性：農林漁業者

●構成員数：31人

●コーディネーター等：なし

●活動内容を紹介するHPアドレス：(佐々木農園) <http://sasaki-farm.com>

●連携団体及び協力団体

属性：栄養士会など

内訳：地元栄養士会(栄養士が田植えのあとの講演を担当。歯科医師が食べものと歯の関係の話を担当)、徳島ベジフルコミュニティー(野菜ソムリエが収穫したサツマイモの調理。また田植え時の昼食の準備を担当)



鳴門市大麻町の風景

取組地域及び地域の特徴

取組地域①：徳島県鳴門市大麻町(米)

地域の特徴：

水田が広がる大麻町堀江地区は鳴門市の中部に位置し、吉野川下流域の肥沃な土質に恵まれた田園地帯である。阿讃山地を背景に、この水の豊かな村はしばしば水害に悩まされた。水防の不備な時代には、命を犠牲にしてまでも、田畑を守った先人たちがいたと聞く。当然ながら水路が多く見られ、鯉や鮎などの水生動物の絶好の棲家となっており、最新のメダカ調査では日本古来種が多く外来種は見当たらなかった。

堀江地区は近年、レンコン産地として全国的にも有名で、他に梨・すだち・春大根などの各種農産物を栽培している。

取組地域②：徳島県徳島市川内町(サツマイモ：なると金時)

地域の特徴：

サツマイモ畑がある川内町は徳島市の北部に位置し、四国三郎(吉野川)の河口に広がるデルタ地帯。中心部には国道11号線が通り徳島自動車道の起点でもあるので、多くの店が並び発展している。また、閑静な住宅地と田畑が広がっており、徳島市のベッドタウンとして混住化が進んでいる。昔は、「穀倉川内」と呼ばれた一面の水田地帯であったが、現在は、サツマイモ・レンコン・カリフラワー・大根・米などの農産物の栽培が盛んである。特に「なると金時」は昭和10年代後半から栽培が始まり、川内町で栽培された「なると金時」は「甘姫^{あまひめ}」というブランドで商標登録されている。

取組内容

(1)目的(目標)

農作物を育てる過程で、さまざまな農作業に驚き、自然とともに歩む農業の大変さや大切さ・優しさ・充実感・安らぎなどを五感で感じ学んでもらいたい。

- ①農作業を通じて農業への理解を深め、五感で農業の素晴らしさを感じる。
- ②食と農がつながっていることを、農作業体験を通じて伝える。
- ③農産物が食卓に上がるまでの苦勞を感じ、食を大切にする心を醸成する。
- ④農産物が本来持っているおいしい食べ方を伝える。

(2)取組開始時期・経緯

「徳島女性農業経営者ネットワーク(You・Meネット)」は、平成13年に活力ある農業・農村の形成を目指し、女性農業経営者としての資質向上を図り、農村のパートナーシップ(男女共同参画)社会実現のための活動を進めることを目的に発足した。

“You・Meネット”という名前には、農業は農業従事者だけでなく、消費者とともに農業を維持・振興していくことが重要なことから、「あなたの農業でもあり私の農業でもあるのよ」という思いと、「あなたも私とともに夢を持って活動しましょう」という願いが込められている。

(3)対象作物

米、サツマイモ

選択理由：米は約20年前にレンコンの農業の空中散布が近所で問題になり、農業への理解を促すために、近隣住民(消費者)を対象に身近なイネで田植えを実施したのが始まり。サツマイモは約10年前、子育て支援の方に頼まれたことをきっかけに、サツマイモの植え付けから収穫までの体験を実施している。

(4)具体的な取組内容

瑞穂の国日本の主食であり、日本農業の根本である米と、徳島県が全国に誇るサツマイモのブランド「なると金時」の農業体験を実施している。

また、農作業体験だけではなく、米やサツマイモの歴史・種類・栄養・調理方法といったことを事前学習として提案し、収穫祭のとき、子どもたちが学習したことに対して、それぞれ専門分野の方たちから、食文化等についてお話を頂いている。

子どもたちには、収穫した米やサツマイモを使って調理し、自ら育てたものを舌で感じ、また家族で食べることによって、食の大切さ、自然の偉大さ等への理解を深めている。

米づくりでは、初めに田植え作業の説明を行ない、次に田植え定規の使い方を実演する。参加した大学生は定規の仕組みの素晴らしさに感嘆の声をあげる。素足で田に入り、先祖が田の中の小石を拾ってきた努力のおかげで、小石が一つも無いことなどを五感で感じて欲しい。農作業体験を経験することで、生きる力が備わると考えている。

サツマイモづくりでは「サツマイモまるごと体験」をテーマに、植え付けから、自分の口に食べものとして入るまでを体験することにより、自然の偉大さ、農業と自然との関わり、そ



田植え定規の説明

して食の大切さを学んでいる。取組みの当初、子どもの親がイモは土に植えるのを知らないことには驚いた。また、収穫したイモは自然の物だから、曲がったりいろいろな形のものがあり、それを見て驚き、また、一つ一つ形が違うことを実感した上で、農作業の大変さも学んでいる。

(5)年間スケジュール(平成22年度)

【米】		【サツマイモ】	
6月	田植え	6月上旬	サツマイモ苗の植え付け
7月	田んぼの生きもの観察会	6月下旬	サツマイモの草取り
10月上旬	稲刈り、はぜ架け	11月上旬	サツマイモの収穫
11月下旬	収穫祭(餅つき)	11月中旬	サツマイモの料理教室

(6)参加者数・属性の実績及び推移

消費者や大学生、保育園児や児童ホーム、学童保育クラブの子どもたちが参加している。

米づくり：消費者と大学生で約70名(県外からの参加者もあり)。田植え約70人、稲刈り約30人、収穫祭(餅つき)約100人が参加している(平成22年度)。

サツマイモづくり：一般公募で主に地元の学童保育の親子約60名(平成22年度)。

(7)経費

農作業体験は今まですべてボランティアでやってきたが、依頼件数が増えてくると手もかかり経費もかさむ。今後は、参加費の設定や費用負担を考えたい。

課題及び対処方法(ポイント・工夫)等

●工夫

サツマイモの植え方・育ち方の説明では、子どもたちの注目度をアップさせるために、大きな紙に紙芝居風に絵を描き説明している。絵を見せ、質問を交えながらの説明には、それまでザワザワしていた子どもたちも、サッと集中し目を輝かせて聞いてくれる。

参加者には、農産物を育てる過程で野菜の旬や栄養価、自然とともに歩む農業の大切さや大変さを学びつつ、優しさ、充実感、安らぎなどを五感で感じてほしいと思っている。サツマイモの料理レシピを子どもたちが持ち寄り、一緒に料理をつくって食べた。



収穫の前の学習で理解が深まる

●関係者(団体)との連携の経緯

- ①地元栄養士会：栄養士が田植えのあとの講演を担当。
- ②徳島ベジフルコミュニティー(野菜ソムリエ)：収穫したサツマイモの調理。また田植え時の昼食の準備を担当。
- ③“You・Meネット”の設立に当たっては、徳島県の農林水産総合技術支援センターに指導していただいた。

これまでの成果

- ①平成17年1月に遊びを通じて楽しみながら、ふるさとの農や食の大切さ、農文化や郷土食を次世代へつないでいきたい想いから『とくしま農と食かるた』を作成。学校等を中心に1800セットを配布・販売した。
- ②平成22年3月に、農を知ってもらうための学習資料として『とくしま農と食クイズ』を作成した。各農産物の年間を通した栽培や出荷工程、生産者だからこそ知りうる農産物の特性や食べ方などをクイズ集としてまとめている。今後、さまざまな食育の場面で生産者から発信する情報として活用したいと考えている。

今後の構想、課題

〈課題〉

- ①雨で農作業体験が延期になったとき、参加者の来られる日に合わせるのが難しい。また農家本来の農作業もあり調整が難しい。
- ②一般公募に参加する人は作物を収穫することだけが目的の人も多く、食育として参加している人は少ないのではないかと感じる時がある。イモ掘りもレジャー化している。一方、学校として参加する場合、子どもたちはしっかり事前学習をして来られる。



学校の場合は熱心な先生がいると効果が高い

- ③参加費の徴収(実費程度)

〈今後の展開〉

農業者だけでなく、栄養士など異業種の人とも取り組むことで、新しい気づきを生じさせたい。

- ①子どもたちが自ら収穫した泥つきのサツマイモを市場に出荷する状態にし、保護者を対象に販売体験をする。
- ②植え付ける土壌や肥料、水分量を変えて栽培し、成長具合や味・形などを比較する。植物が育つ上で何が必要か、環境問題までつないで考える(土・太陽・雨・風など)。

みんなのコメント集

取組の 実践者

「子どもの喜ぶ顔を見たり、農業をわかってもらえることが嬉しいです。自分たちには普段の何気ない作業でも、子どもの言葉から新たな発見・感動を受けます」

「地域の耕作地や環境、先祖が築いた貴重な水田を守るためには、小さい農家の力が必要です」

「食と農のかい離がよく言われます。今の農家は高齢者も多く、孫の時代の食料と環境はどうなるのか不安です」

参加者

子どもの感想

「おいもの絵でせつめいしてくれてありがとう。よくわかったよ。いものなえをうえるとき、きちんと土がかぶって
いなかったの、いっしょにかぶせてくれたので、だんだんうまくかぶせれるようになったのでうれしかったよ。あ
りがとうございました」

「植田さん、なえのうえかたをおしえてくれて、ありがとうございます。まずさいしょにさつまいものなえを手にとっ
てみるとなえはこんなに長いんだなあ、ここからおいもがはえてくるんだなあと思いました。こんどもよろしくおねが
いします」

「さつまいものなえのうえかたをおしえてくれてありがとうございました。また花がさいてさいごに土の中でさつ
まいもができるのをたのしみにしてまっています。またどこかであつたら手をふってね」



イモ掘りの様子